2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
経営学部 地域ビジネス学科	講師	榎澤 祐一
最終学歴	学　位	専門分野
嘉悦大学大学院 ビジネス創造研究科博士後期課程修了	博士（経営管理）	消費者行動論 マーケティング論

Ⅰ　教育活動

○目標・計画

（目標）

建学の精神「真に信頼して事を任せうる人材」の「信頼」は、経営学がその対象とする日本のビジネスシーンでは、コミュニケーション・コストをかけなくても「期待通りの行動をしてくれる」という意味に解釈されることが多かった。一方、現代の市場経済では、情報技術の急速な発展により商品やサービスの同質化が進み、信頼に至るには情緒面での「期待以上」の行動が事実上求められる。そして、期待以上を実行できる存在が、ブランドステートメントにある「オンリーワン」であると解釈できる。

そこで「真に信頼して事を任せうる人材」という言葉を現代的に解釈し、自身の目標を「期待以上の行動を考えて、起こせる人材」の育成と捉えた。

技術発展が飽和している現代における「期待以上の行動」のためには、コミュニケーションによる他者の期待の理解と、それに基づく創造性が基盤にあると考えられた。そこで、まずは前者に関連し「話す内容」と「話し方」の教育に重点を置く。

（計画）

① 指導学生のビジネスプラン・コンテスト出場を実現する（話す内容）

② プロジェクト型授業での履修者間での協働とコミュニケーションを促進する（話し方）

③　講義型授業での履修者間のコミュニケーションを促進する（話し方）

④

○担当科目（前期・後期）

（前期）

入門マーケティング、ビジネスプランニング、専門プロジェクトⅠ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

リーダーシップ論、マーケティング論、専門プロジェクトⅡ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

プロジェクト型授業だけでなく、講義や演習でも PBL 型授業を随所に取り入れた。

「ビジネスプランニング」: 椙山女学園大学現代マネジメント学部「第 10 回 ビジネスプラン・コンテスト」に授業内で選抜された３作品が応募

「専門プロジェクトⅠ」: 1 日限定学内カフェラウンジ

「専門プロジェクトⅡ」: 松坂屋名古屋店での知育玩具「ジナゾル」の販売体験会の開催

「総合演習Ⅱ」：マーケティング実務手法の教授の一環として、短尺プロモーション動画を作成
※専門プロジェクトは谷口准教授「東邦プロジェクトⅠ・Ⅱ」と共同実施ｄｓ

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

「話す」をテーマに講義やプロジェクト科目では様々な工夫を試みたが、なかなか学生がディスカッションを自発的に行うというレベルには至らなかった。その一方で卒業論文指導について学生から直接に高評価を口頭で受けた。その理由として卒業論文をそもそも、どう書けば良いかについて指導があるからとのことであった。また、全員出席により他者の卒業論文についてコメントしたり批判を受けたりすることも良かったとのことであった。卒業論文のゼミナールは、自分の発表の順番がなくても毎回他者の発表に対して全員コメントを述べるというルールで実施したが、自発的な発言を求める水準を求める前に、このようなルール化した方法が、学生にフィットしていた可能性がある。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

①アタッチメント・スタイルが消費者の向社会的行動に与える影響
②宗教が消費者倫理に与える影響

○目標・計画

（目標）

① 国際学会発表１件
② 全国規模の学会論文１報、または、国際学会プロシーディングスへの論文１報掲載

（計画）

昨年、研究した研究課題①の国際学会発表とプロシーディングス投稿（査読あり）を実施する。研究課題②の論文を学会誌に執筆する。

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

・榎澤祐一(2023)『消費者の向社会的行動原理－カスタマー・ハラスメント予防のためのコミュニケーション』ひつじ書房

（学術論文）

・Yuichi Enosawa(2023) ” PSYCHOLOGICAL MECHANISM UNDERLYING THE MANNERS OF CHINESE TOURISTS AT ENTERTAINMENT EVENTS”, *Proceedings of the 9 th International Conference on Hospitality and Tourism Management*, 7(1) 19-29.（査読付き）
・榎澤祐一(2022)『アタッチメント・スタイルが消費者の向社会的行動に与える影響―エンタテインメント・イベント参加者の行動を手がかりとして―』博士論文（査読付き）
・榎澤祐一(2022)「日本の音楽著作権管理事業におけるメガマーケティング－技術を考慮に入れた制度派組織論の視角から－」『実践経営』58, 21-29.（査読付き）
・榎澤祐一(2021)「アタッチメント・スタイルが消費者の向社会的行動に与える影響」『市場創造研

究』10, 5-18.（査読付き）

・榎澤祐一(2020)「エンタテインメント・イベント消費者の分析におけるアタッチメント・スタイルの意義」『日本マーケティング学会 カンファレンス・プロシーディングス』9, 353-358. （査読付き）

（学会発表）

・Yuichi Enosawa(2023) “Psychological mechanism underlying the prosocial behavior of Chinese tourists contrasted with Japanese consumers”, 5th European Public Health Webinar 2023

・Yuichi Enosawa(2022)“PSYCHOLOGICAL MECHANISM UNDERLYING THE MANNERS OF CHINESE TOURISTS AT ENTERTAINMENT EVENT”, The International Conferences on Hospitality and Tourism Management 2022

・榎澤祐一(2021)「日本の音楽著作権管理事業におけるメガマーケティング―制度的実践の連鎖による競争優位性の確立―」『実践経営学会第63回全国大会』

・榎澤祐一(2020)「知的財産権の管理サービスに関する事例比較研究: 日本の音楽著作権管理事業におけるメガマーケティング」『実践経営学会関東支部会』

・榎澤祐一(2020)「アタッチメント・スタイルが消費者の向社会的行動に与える影響」『日本消費者行動研究学会 ロング・セッション オーラル報告』

・榎澤祐一(2020)「エンタテインメント・イベントに参加する消費者行動分析におけるアタッチメント・スタイルの援用」『日本マーケティング学会 ドクター・オーラル報告』

（特許）

（その他）

・榎澤祐一(2021)「エンタテインメント・イベント鑑賞者の分析における知覚品質フレームワークの適用可能性」『DHU JOURNAL』8, 73-76.（査読付き）

・榎澤祐一(2020)「エンタテインメント・イベント消費者の分析におけるアタッチメント・スタイルの意義」『嘉悦大学研究論集』63(1), 97-107.（査読付き）

〇科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

・科学研究費　2023年度　若手研究
「バイコットのパーソナリティ要因ーアタッチメント・スタイルに着目してー」（不採択）

・日本消費者行動研究学会　2022年度　国際学会派遣事業（海外発表助成）
“Psychological Mechanism Underlying the Manners of Chinese Tourists at Entertainment Events”, Hospitality & Tourism Management Conference, 2022/10/27-28（採択）

・愛知東邦大学 2022年度 愛知東邦大学出版助成金 2022年10月 – 2023年3月
「消費者の向社会的行動原理 ーカスタマー・ハラスメント予防のためのサービス設計ー」(採択)

・科学研究費　2022年度　研究成果公開促進費（学術図書）
「消費者の向社会的行動原理―カスタマー・ハラスメント予防のためのサービス設計―」（不採択）

・愛知東邦大学 2021 年度学内研究推進経費「若手奨励研究」 2021年8月 – 2022年3月
「アタッチメント・スタイルが消費者の向社会的行動に与える影響」(採択)

〇所属学会

日本マーケティング学会

日本消費者行動研究学会
実践経営学会
日本ビジネス実務学会

○自己評価
国際学会プロシーディングス１報、国際学会発表２回（内、1 回は基調講演）、単著書籍 1 冊を業績として残すことができ目標を大きく上回った。

Ⅲ　大学運営
○目標・計画
（目標）
① 3 学部連携地域連携プロジェクトの象徴となるイベントを成功裏に開催する（地域連携センター運営委員会委員、地域創造研究所・主査として）
② 学生、社会、文部科学省による高等教育機関への期待を総合し、本学の制約の中で各要件を最大限満たし得る教育課程についての知見を収集し提供する（教務委員会委員、大学再編ワーキンググループメンバーとして）
（計画）
① 名古屋市内の小売店舗での知育玩具「ジナゾル」の体験会イベントの開催と記録。
② 新設大学・高専やそれらの新設・再編学部の動向、政府の高等教育政策について、経緯や背景を含めた最新情報を収集の上、意見を構築し、委員会やワーキンググループで発信する。
③
○学内委員等（事前記載項目）
地域・産学連携センター運営委員会、教務委員会

○自己評価
前者の目標については、「ジナゾル」体験会を無事終了できたが、協働していた谷口准教授の働きが大きく、学内でのイベントにはスケジュールにより参加が叶わなかった。後者の目標については、情報の収集だけでなく本学の実情を踏まえたアイディアを提案した結果、全面的に採用頂く運びとなり、目標を大きく上回った。

Ⅳ　社会貢献
○目標・計画
（目標）
① 企業、非営利組織での DX 推進
② 教育外の場へのアカデミックな知見の発信
（計画）
① 共同研究先企業や、理事を務める（公財）日本郵趣協会での DX 推進の一助としてオンラインによる学術研究活動を支援する。
② ウェブ媒体または、一般書の形で、ビジネスに関するアカデミックな知見の有用性を経営者、ビジネスパーソン向けのコミュニケーション・スタイルで伝達し、社会実装を促進する。

○学会活動等

○地域連携・社会貢献等

愛知県立東海樟風高等学校 出張講義「アニメソングのプロデュース から見るマーケティング」2022 年 10 月 18 日

JBpress 記事「何も変えていないのに売り上げ 3 割減、データの意外な盲点とは」2022 年 7 月 26 日

○自己評価

前者については DX 推進のスタンスで取り組んだが、マーケティングの経験・知見を評価していただくことが多かった。実績としては、共同研究先企業の新規 Web サービスにおける PoC（概念実証）の支援と、(公財) 日本郵趣協会でのオンラインミーティングの技術基盤の構築である。後者については、知人の支援によりビジネスパーソン向け Web メディアの「JBpress」にビジネス上でのデータ活用に関する記事を採用頂くことができた。また、愛知県初の総合情報科を開設した東海樟風高等学校から、ご指名を頂き出張講義を行った。

V　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

世界郵趣連合の国際審査員資格（現在はアジア郵趣連合審査員）を取得し、国際交流の範囲をアジア・中近東・アフリカ外にも広げる。

VI　総括

本学に着任し 2 年目ということで、教育・研究ともに基礎を踏まえて次のステップを目指した 1 年であった。教育では「話す」行為の活性化、研究では国際的な業績を意識した。その結果、教育では意図した結果にはならなかったが、予想外に「卒業論文指導」という、日本の大学としてもっとも伝統的な教育において学生から高い評価をもらうことができ、学生の会話も活性化していた。また、研究では、国際学会発表と英文によるプロシーディングス執筆を実現した。来年度から本学では非常勤での勤務となるが、この成功体験を基に卒業論文以外の授業でも「話す」行為の活性化ができればと考えている。

以　上